

根本かおるさんのネパール通信

ネパールでは、約 10 万 6,000 人のネパール系ブータン難民が、南東部の 7 つの難民キャンプに分かれて避難生活を送っています。UNHCR ネパールのダマク事務所では、日本人職員である根本かおるさんが所長として活躍されています。現地より、難民キャンプの最新ニュースが届きました。

根本かおる（プロフィール）

兵庫県神戸市出身。東京大学法学部卒。テレビ朝日アナウンス部・報道局勤務を経て、フルブライト奨学生として米国コロンビア大学に留学、国際関係論修士号取得。1996 年から国連難民高等弁務官（UNHCR）事務所勤務。トルコ、ブルンジ、コソボ、ジュネーブ本部を経て、WFP 国連世界食糧計画に出向後、2006 年 2 月より UNHCR ネパール・ダマク事務所長。



難民女性リーダーとのツーショット
UNHCR/Margareta Boberg

ネパール通信 No.1

2006 年 6 月

ネパールの東端に位置するダマク。国の東西を結ぶハイウェイ沿いのこの町は亜熱帯地域にあり、「ヒマラヤ」という一般的なネパールのイメージからは程遠く、ほとんどインドです。民族的にも、彫りの深いインド・アリア系の人々、日本人にも似たモンゴル系の顔をした人々などなど様々です。この町にある UNHCR ダマク事務所の所長として今年 2 月から駐在しています。

ブータン政府の民族主義政策の影響で 1990 年代初頭にブータンを逃れてきたネパール系のブータン難民 10 万 6 千人がネパールで 7 つのキャンプに分かれて住んでいるということは、まだ日本ではあまり知られていないことかもしれません。

19 世紀後半から 20 世紀始めに経済的な理由から多くの人々がネパールからブータン南部に移住しました。これらネパール系住民は 1958 年国籍法に基づきブータン国籍を取得するに至りましたが、低地に住むネパール語を話しヒンズー教徒中心のネパール系の人々は、中高地に住む仏教徒の主流派ブータン人とは、そもそも民族的にも宗教的にも異なります。1980 年代に入ってとられた民族主義的政策の結果、ネパール系の人々は国籍を失い、90 年代初頭に大量のネパール系ブータン人が国を追われることになりました。ブータン政府の民族主義的政策に反対する抗議行動も、多くのネパール系ブータン人の国外追放という結果をもたらしました。

ブータン難民がネパールに流入し始めたのは 1990 年末のこと。これを受けて、1991 年 2 月から国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）はブータン難民に対して支援を提供し始めました。1991 年 9 月までにはおよそ 5,000 人にのぼる難民が流入したため、ネパール政府が UNHCR に緊急援助の調整を公式に依頼。1992 年初めには、UNHCR は国連世界食糧計画（WFP）や NGO パートナーらと協力して大規模な緊急支援オペレーションを立ち上げました。

それ以来、これら難民の権利保護と支援物資・サービスの提供、および恒久的解決の模索を、UNHCR はネパール政府当局や NGO パートナーらと連携しながら担っています。オフィスは国際スタッフ9人(日本、スーダン、アメリカ(2人)、オーストラリア、インド(2人)、デンマーク、スウェーデン)を含めておよそ35人規模のオフィスです。

4月6日からおよそ3週間にわたってネパール全土でゼネストが繰り広げられ、日本でも幅広く報道されました。ネパール国王が議会の復活を宣言し、ようやく事態は収束に向かい、新たな政治体制が発足しました。



現地職員と
UNHCR/Mahendra Lohani



UNHCR 車両がトラックの隊列をエスコート
©UNHCR



ゼネスト期間中の道路封鎖
UNHCR/Kaoru Nemoto

4月のゼネスト期間中は、救急車と国連機関の車以外、一般車両の通行が3週間近くストップしていたので、人の移動や物の運搬が打撃を受け、7つの難民キャンプに住むブータン難民10万6千人に支給する配給食糧や調理燃料などの支援物資をどのようにして運搬するかという難題が重くのしかかりました。何とか関係方面の理解を取り付け、「これはブータン難民向けの人道支援です」という横断幕を張ってトラックの隊列を仕立て、国連機関の車両がエスコートして運搬。難民たちはゼネストの影響で通常以上に移動の自由が制限され、UNHCR などから支給される支援物資への依存度が高まっていたため、物資を届けることが以前にも増して重要になっていました。いつもは厳しい注文をしてばかりいる難民のリーダーたちから、「こんな厳しい環境の中、われわれのために支援物資を運んでくれてありがとう」と丁重な感謝の言葉を受けました。

ゼネストの中、NGO など UNHCR の協力団体のスタッフがキャンプに行くのにも特別の配慮が必要でした。スタッフの移動のため、UNHCR の車がエスコートして車両の隊列を組み、スタッフの安全確保に努めました。

このような異常事態の下、自分の国の将来がどうなるのかと気を揉みながらも、モラルをもって支援活動にあたっているネパール人スタッフには本当に頭が下がります。

任期2年のダマク駐在はまだ始まったばかり。今後も活動状況をご報告していきますので、どうぞ支援ください。

「ネパールのブータン難民」支援はこちらから

<http://japanforunhcr.org/gokifu.html>